

# 筆山

第25号 / 1998年12月

土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人/西岡 恒憲 (41回)

〒106-0032 東京都港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 TEL 03-3587-6200 FAX 03-3587-6201



10月3日 高見山の地滑りの生々しい傷跡を背景に、母校運動会（土佐高HPより）

恐ろしき天然、美しき天然

9月24・25日の高知の雷雨はものすごく二日間であれ年間降雨量の半分降ったと言う。遠く関東の地において故郷の災害に心痛ましめた人も多いことだろう。台風でなくてこの雨量は何に起因するのだろうかと考えた人もいる。土佐出身の人だから真剣に考えた。それは地球温暖化が最大の原因だという。温暖化は降雨量を増やし地球に激しい気候の変化をもたらす。CO<sub>2</sub>の排出を押しさえることとCO<sub>2</sub>の固定化が必要だ。それには自然林を増やすこと。伐採した後は必ず植林が必要だ。ゴルフ場開発はいけない。日本を空から見ると日本中の山林は禿ちよるけになつていく。ああやんぬるかなという議論だ。

さる優秀な工学研究者の或る日。8月の雨上がりの朝、出勤の車で道路に出るから窓ガラスに雨蛙が張り付いているのに気付く。それを振り落とさないように、風に飛ばされないように、大事に大事に運転して職場に行く。人も蛙も無事に着いて彼はめでたく自分の仕事に没頭する事ができた。一時間後所用で車に乗る必要が生じ車の所に行く。蛙の姿は見えない。無事地面に降りたかなと思つたが念のため車の周囲を点検するとフェンダーの下に空気取り入れ口に悠然と鎮座ましまして。空気流入量の多い所だ。このままでは蛙の干物ができてしまう。彼は草をむしって追い払おうとしたがなかなか離れない。やつと草叢に追い払つたが、随分遠くまで連れて来たものだ。かの蛙の一生の行動範囲を超えている。親兄弟と永遠に引き離してしまつたと、彼は筑波山を見上げながら考えた。

# 関東支部活動報告

## 関東支部総会

平成10年5月23日(土)例年どおり代々木のオリンピック記念青少年総合センターに、73回生四十数名を含む三百名近い同窓が参加し、総会、記念講演ならびに大懇親会が盛大に行われました。

総会では、前年秋の学年幹事会で決定された全役員の留任、平成九年度の決算報告がそれぞれ満場一致で承認されました。引き続き「答え一発カシオミ」の開発者として名高いカシオ計算機(株)常務取締役羽方将之氏(38回)により「技術と経済の活性化」という演題でアメリカ経済を支

えているベンチャー企業についての記念講演が行われました。

大懇親会では、28回、38回、48回、58回、68回生の演出進行によるビンゴゲームや福引きに会場は騒然となり、土佐高校のインターネットホームページが大スクリーンに映し出されると、懐かしさと母校の進化に歓声が上がりました。会場のおちこちでは、旧友を見つけての歓談や、先輩後輩の間での情報交換が展開されました。あとはいつもの土佐流飲み会が繰り広げられ、土佐弁が飛び交う興奮の二時間でした。

最後に事務局からお願いです。

例年、新会員は多数出席して懇親会を盛り上げてくれるのですが、翌年はその数が激減するといったパターンを繰り返してききました。会費がタダの年だけ参加し、学生会費3千円となる翌年からは誰も来ないというのでは、余りにも情けないと言わざるを得ません。一年下の後輩や、浪人生して勇躍東上してくる同級生

達の方は自分たちで負担してやるというくらいに気概を持って翌年以降も参加して欲しいものです。その気持ちこそが同窓会の命脈を繋ぐのです。

平成11年関東支部総会は6月5日(土)にオリンピック記念青少年総合センターで行われます。73回生の皆さん次回もまた大勢で参加して下さい。

## 関東支部名簿

「一九九八年版関東支部名簿」が7月に発行されました。掲載会員数「六四一名。小島名簿作成委員長(40回)以下担当幹事の皆さんの献身的ボランティアにより、三年更新という厳しい条件をクリアしてくれました。名簿のデータは全て一人一人の会員の方々の自己申告に基づいて作成されています。今後変更や異動がありましたら、忘れずに事務局へご連絡をお願いします。

## 支部会報「筆山」

平成4年の15号より最新の24号まで10号6年の永きに涉り、多岐にわたるニュースを独特の軽快な紙面に載せて提供してくれた藤宗俊介氏(42回)が、業務多忙のため編集長を退かれる事になりました。これまでの活躍に敬意を表

し、心より感謝の意を表します。後任編集長には、西岡恒憲氏(41回)を迎え、本25号より編集の指揮を執っていただく事になりました。パソコンを駆使した斬新な編集と重厚な紙面を送り届けて頂ける事でしょう。ご期待ください。

## 同窓会館建設基金

溝淵幹事長を中心として続けられている、同窓会館建設基金の募金活動は、牛の歩みではありますが、着実に継続しており平成10年9月末現在で、金一、六五七、八三五円となっております。今後も皆様のご協力をお願いします。

## 水害義援金

母校の浜田教頭先生からの報告にもありますように、平成10年9月、ふるさと高知は未曾有の大水害の見舞われました。関東支部では郷土復興の一助にと、「社会福祉法人高知新聞社会福祉事業団」を通じて、義援金として10万円を送りました。

## 母校だより

教頭 浜田俊充(35回生) 関東支部の皆様には、初めてお便り差し上げます。昨年度退職されました松尾先生の後、教頭職をお受けしました。

二年間群馬県で教職に就いた後、昭和44年に母校に赴任して今に至っています。今後ともよろしくお願い致します。

さて、一学期最大の行事である運動会は例年通り9月23日に予定していましたが、報道でもご存じのとおり、大水害のため延期を重ねざるを得なくなりました。夏からの渇水のため、給水制限や節水の通達がだされたりして9月半ばまででしたが、運動会直前の22日、台風7号接近のため休校。ヤグラの準備も俟たなくなりました。23日は小康状態でしたが、24日には高知市は午後9時からの一時間降水量が一三〇ミリ、総雨量が一〇〇〇ミリを超す集中豪雨となり、25日も休校を余儀なくされました。この豪雨のため、国府川、舟入川が溢流し高知市東部(大津・布師田・岡豊・高須)を中心に、新グランド付近も含め浸水、山崩れが多発しました。本校生徒の家の被害も多く、床上浸水六六名、床下浸水一五五名となりました。重大な家屋損壊や怪我等がなかったのは幸いです。一時は運動会中止も考えましたが、被害を受けた方々の力付けにもなろうかと、



10月3日に行うことに決定しました。新ブランドからは高見山や西孕の山の崩落も散見される中でしたが、生徒も一丸となって、爽やかな運動会となりました。その後、台風10号も接近しましたが、大したこともなく一安心でした。

水書報告のようになりまして、その他の学校行事としては、現在(10月28日)中学三年生が北九州四泊五日の修学旅行中です。集団生活の中で深い友情を育むことにより、今後の高校生活、学習活動に積極的に取り組む基になると確信しています。

さて先輩諸氏にも大関心のある大学受験も間近になりました。入試センター試験は二六二名(約87%)で出願が終りました。高三は最近の模擬試験でも相当な成績をあげており、大いに期待したいところです。高一、高二の模擬試験成績も例年以上に良いようです。現役合格率も二二年間は、71%、68%と比較的良好い結果を出していますが、より高い志望達成に向けて全校挙げて努力しています。

なお現在、委員会もつくり学校として取り組んでいる大きな課題が二つあります。

一つは、高校入試に推薦制度を導入することが決定しました。(他の私学も導入します。)高知県内から一五名程度、成績はもとより特別な才能を有する者も対象にします。もう一つは、開校八十周年(二〇〇〇年)記念行事の計画です。これは百周年も念頭に置き長期計画を立案しなければと考えています。その際は、同窓会の皆様にも多大なご支援をお願いしなければなりません。なにとぞよろしくお願い致します。

本部だより

幹事長 岡内紀雄(34回生) 平成10年8月8日(土)高知新阪急ホテルにおいて、新卒73回生を含む多数の同窓の出席を得て、総会、記念講演ならびに懇親会が盛大に開催されました。

総会では岡村甫会長が、会報誌「向陽」に掲載の母校吹奏楽部の楽器の不足、老朽化による窮状に対し、同窓会として資金的援助をすることを提案して承されました。

記念講演は、49回生で家庭用ゲームソフト大手株式会社スクウェア社長の武市智行氏による「夢への挑戦」というテーマ

マで、スクウェアの代表作品「ファイナルファンタジー」から最新作の「ファイナルファンタジー」に至る、画質の鮮明度とリアルな表情の変遷・開発技術の進歩を実際のTV画面でビジュアルに解説、夢を持ち、夢を語ること、そしてその実現に向かつてチャレンジすることのすばらしさについて、グローバルに躍進を続けるスクウェアを舞台にお話しをいただきました。

懇親会は、松浦前校長、森田現校長をはじめ、町田先生(前会長)、中沢先生他多数の先生方も出席され、尚武会(剣道部OB会)のあたたかい司会進行のもと、和気あいあいのうちに新旧同窓を交しつづい出話に花を咲かせ、応援歌を合唱、母校にエールをおくりに開きとなりました。

なお、来年の総会は8月7日(土)に開催いたします。関東支部のみなさま多数のご参加をお待ちしています。

東海支部だより

事務局長 南毅一(37回)

この夏、郷里・土佐の高知にこじんと雨が降りました。台風銀座高知と聞いて育った私ですが、ニュースを見てびっ

くり、被害を受けられた皆様には心からお見舞い申し上げます。

それにしても雨が降った。名古屋でも降った。足許からカビが生えてくるばあ降った。関東では如何でしたか。

本年5月、東海支部総会も恒例の通り行い、母校より浜田新教頭先生(35回)にご出席いただきました。先生からあふれるばかりの闘志がパンパンと伝わって、「ワシらも頑張っちゃうキ、オマンらもしっかりヤリヤ!!」と逆に励まされたりしてうれしくなりました。関西支部からは新しく支部長になられた永野元玄氏(29回)にご来名を賜りました。いつも甲子園の第一試合、NHKアナウンサーのふるえる声で「主審は永野さん...。そうです。あの夏の準優勝校・土佐高校のキャッチャーの永野さんです...」そのスター永野さんが眼の前にいるのです。ニョヤカに土佐高時代の想い出をお話しいたいたい、スターを囲む写真大会になったりでニギヤかな同窓会となりました。

もう一人の甲子園スターであるサイクルヒット男・玉川寿氏(52回)もこの名古屋に勤務中...。両スターが今この名古屋に居るといことは、春から縁起が良い。こりゃ来年こそ、ドラゴンズ優勝だあ。名古屋経済復興だあ。

関西支部だより

支部長 永野元玄(29回生)

関東支部会員の皆様方にはご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。「筆山」は25号と回を重ねられ、ますますご隆盛の趣、ご同慶に存じます。そして、関東支部の熱気をいつも感じます。われわれも負けないように、と考えますが、残念ながらそこまではは到りません。当面の計画を申し上げますと、12月下旬に「なんぶう」第19号を発売の予定で準備を進めているところです。印刷方式を少し変えてみよと考えています。

年が明けて1月22日(金)に例会の「関西支部新年総会」を新阪急ホテルにて開催します。例年、土曜日としていましたが、今回は休日を避けてみました。

創刊された「向陽」などにも記載していますが、当支部の二役がここ二、三年の間に交替しましたので、念のためお知らせします。支部長は岡

村さんから永野元玄(29)へ、幹事長が関口さんから竹下和夫さん(42)へ、事務局が竹原さんから木下章夫さん(31)へと替わりました。よろしくお願ひします。

世情は、かつてない激変、異常な状態が続いていますが、夜明け前が最も暗いそうです。今がそのときかも知れませんが、元氣を出して行くしかありません。関東支部会員の皆さまのご健勝、ご隆昌を祈念して、「便り」に代えます。

広島支部だより

事務局長 小島一洋(31回) 関東支部の皆さんお元氣にお過ごしのこと存じます。今春広島平和研究所が設立され、国際社会の未来を切り開くための活動を開始し、「平和首都」を目指しているヒロシマです。一方ではユネスコの世界遺産として自然遺産に宮島の原始林また文化遺産として厳島神社と原爆ドームが登録されました。

広島支部の活動は、関東・東海・香川の各支部総会と本部の総会に出席させて頂き一層の同窓生交流を図って参りました。また広島支部の自由参加の「青春の集い」が第3

木曜日のアフターファイブに小料理店梅太郎での楽しい集いとして続けられております。そろそろ平成11年新年総会交流懇親会の準備にとりかからなければなりません。予定は平成11年1月23日(土)です。

香川支部だより

支部長 土田哲也(32回生) 関東支部の皆様には御健勝にお過ごしのこと存じます。今年の香川支部総会は、6月27日(土)午後6時からいつもの「土佐っ子」で開催しました。来賓として母校から土居徹先生、本部から大久保浩三副会長、永野和宏副幹事長、関東支部から鶴和千秋事務局長、広島支部から天田充會計監査の方々に御臨席頂きました。やっと二年経ったばかりの支部ですので、励ましを頂くと大きな力になります。当口、会員は25回生から64回生までの31名が出席しました。フレッシュマンがいないのが残念ですが、今後に期待してきます。総会では、役員

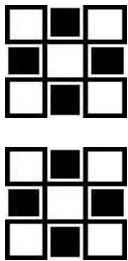
の任期が到来しましたので、若干の会則改正をした上で、全員再選されました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。御来賓の御挨拶、乾杯の

あと、早速土佐弁での談笑となり一年振り旧交を温めました。

なお総会では、当支部も会報を発行することが了承されましたので、次期総会までに実現させる予定です。支部会員との誌上交流はもとより、他の支部の会員の皆様との交流手段にもなるよう工夫したいと思ひますので、御支援下さい。

今年の支部の活動としては、広島支部の十周年記念総会、関西支部総会、関東支部総会、本部総会に出席させて頂きました。各支部とも、年代を問わず同窓生であるというだけで出席の皆様が温かく接して下さい、嬉しい体験をさせて頂いています。

高知の水害では、関東支部の皆様にも御家族、御親族に被害に遭われた方もいたことと推察しますが、お見舞い申し上げますとともに、郷土の復旧をとともに祈念したいと思ひます。関東の皆様御健勝を心より祈念致しております。



名簿つれづれ

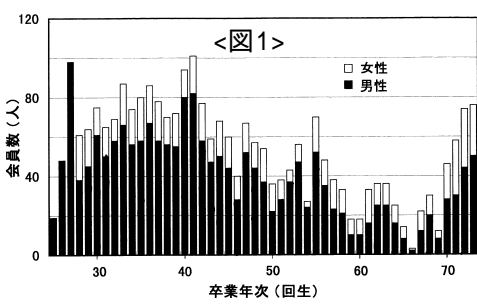
大石和男(四十回)



本年七月、データベースによる三回目の名簿を発行しました。製作費百三十万、発送料八十八万の計二百十八万円。約七百人分の会費を使わせて戴いた勘定です。名簿の発行直後は更新が殺到するのが常、七月に十件、八月に百三件、九月に百件の訂正を致しました。また、Eメールによる更新は二十数件ありました。会費納入の方も九月末現在で九百件、例年より三百件程増える見込みです。

今回の名簿では新しく関東支部会員の統計データを載せてみました。学年ごとの会員数、同窓の居住分布また業種別分類などです。会員の四分の三が東京と神奈川に、しかも三分の一は東京二十三区内に在るとは驚きでした。名簿を預かって十数年、黙々とデータの入力、更新を繰り返してきました。これを通して、社会の移り変わり、同窓の生き方などを垣間見ることもあります。

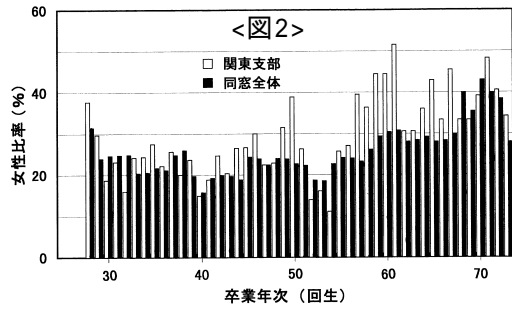
土佐高を振り返ってみましょう。一回から二十五回までが旧制中学、二十四回からが新制高校になります。二十四回は新旧の制度がダブっています。卒業生は一から二十一回までが各学生一、二十名、続く二十七回までは七、八十名、男女共学が始まった二十八回に二百五十名と急増、その後四十一回の三百五十名まで直線的に増え続けます。そして、五十八回までほぼ一定、現在はここから少し減って二百人前後を保っています。



この間の卒業生は一万五千六百一人、約一万五千人の同窓が現存します。

### 支部会員数

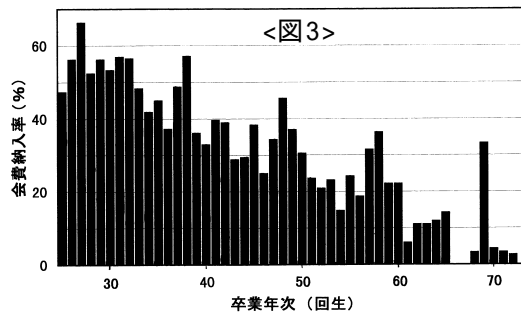
図1は関東支部に登録されている会員数です。横軸は卒業年次ですが、左端は一〜九回生、次は十〜十九回生、三番目は二十〜二十七回生、二十八回からが学生したことになっております。図を見れば、四十二回から六十七回生にかけて会員数が右下がりで大きく減少しています。しかし、学年幹事が頑張っている五十五回のデータから判断すると、関東には各学年八十人はいる筈です。このため、本来の支部会員は現在の二千六百九名から更に千二百人ほど増え、四千人前後と考えられます。これは全卒業生の三十%に相当します。



二、学生会員に女性が増加。フレッシュマン、フレッシュウーマンは、総会に招待され

### 女性比率

名、半数以上の百六十二名が関東に進学しました。しかし、現在は七十五名程度。これは、TV、その他のマスメディアの発達。高知に医科大学ができた。都市と地方で文化格差が無くなった。都心大学の移転で、折角都会の大学に入ったものの高知の田舎より辺鄙だった。などの原因が考えられます。最近のインターネットの普及もこの傾向に拍車をかけるでしょう。



の心境でしょうか？ しかし、高知に帰っても今浦島では？ 先輩方に一度伺ってみたいところです。

四、若い人の就職先が変わって来たこと。詳しくは、いずれ報告を致します。鉄鋼大手二社を例にとれば、三、四十回代の十三人に対し、五、六十回代はたった一人。機械、自動車関係も先細りです。若い世代は、情報、サービス、通信関係を志向しているだけ申しとおきましょう。

### 会費納入率

最後に、少々ショッキングなことを！会費の納入率です（図3）。学年幹事会では何度かご披露しましたが、会員の皆様に公表するのは初めてです。この筆山も名簿も全て、皆様方の会費で賄われております。図については何も語りません。会費納入にご協力をお願い致します。

### 名簿事務局より

以下の方々の住所が不明となっております。ご存知の方は、関東支部事務局か名簿事務局まで一報下さい。

- |            |           |            |             |            |             |             |            |            |            |            |             |            |            |            |             |            |             |            |            |            |            |            |            |            |            |            |
|------------|-----------|------------|-------------|------------|-------------|-------------|------------|------------|------------|------------|-------------|------------|------------|------------|-------------|------------|-------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 73 S 宮地 孝尚 | 71 N 林 千夏 | 71 H 溝渕 敦子 | 68 O 山中 麻夕子 | 67 N 手島 光司 | 67 O 岡部 健一郎 | 65 T 久保田 裕子 | 63 O 松崎 郷志 | 62 T 市川 孝文 | 61 N 森本 毅次 | 61 H 西岡 政道 | 59 N 山本 みずほ | 57 H 吉村 典子 | 55 S 溝渕 秀紀 | 55 S 松岡 浩司 | 55 K 河西 真佐代 | 55 H 北村 裕一 | 55 T 勝賀瀬 信二 | 52 N 寿美 英一 | 50 H 片岡 英一 | 48 S 大嶋 恵子 | 48 O 溝渕 裕盛 | 48 T 大嶋 龍彦 | 43 O 大谷 富紀 | 40 T 西岡 康夫 | 36 S 青木 章泰 | 30 K 大西 俊男 |
|------------|-----------|------------|-------------|------------|-------------|-------------|------------|------------|------------|------------|-------------|------------|------------|------------|-------------|------------|-------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|



ホームページが開設されました！！みんなでアクセスしましょう！  
 土佐中高等学校HP (98年4月) <http://www.inforiyoma.or.jp/tosako/>  
 同窓会関東支部HP (98年7月) <http://www2u.biglobe.ne.jp/~tsuruwa/kantosibu.htm>

37・38 回生 土佐高尾瀬ハイクの会

# 憧れの尾瀬は 山だった

37 回生 中村裕子

「夏が来れば思い出す はるかな尾瀬とおい空。」  
この歌を耳にし、口ずさむ時、一度は行ってみたいと憧れていたのは私だけではないと思うのです。その尾瀬ハイクが昨年の富士登山に続いて催されました。

## 一日目

7月17日夜10時30分、東京駅を夜行バスで出発。夜も明けやらぬ午前3時戸倉着。3時50分シャトルバスに乗り継ぎ、30分程で白々と夜が明け、朝もやの中標高1600mの鳩待峠着。山の冷気に体を震わせながら、参加者夫婦、家族9組を含み36名の紹介があり、至仏山登山組と尾瀬ヶ原直行組に別れ、5時鷲の鳴き声の中を出発した。至仏山組は、9名(女性4名)。脚にだけは自信の私は、富士山から比べりゃしーよいだらうと至仏山組に参加する。

登山道は、昨日迄の雨で泥



泥。陽が高くなり、木々の露が体に落ち懸る。ガスが消え仰くと真っ青な空。強い陽差しが照ってきて、汗ばんで来る。歩いている間、草や木に関心が集まり、観察しながらのトレッキングとなりました。見過ごししまいそうな木の根元に、きのこの様な白い透明感の幻想的な植物は、後にギンリョウソウと判明、忘れられない高山植物となりました。

稜の峰が望まれ、疲れも吹き飛ばされたが、そこは小至仏山(2162m)で、その先に大きく聳える至仏山は、そこから少し下り、さらに緩やかな岩場を登りきった所にある。2228mへのその間は、高山植物の宝庫と言われるだけに、ハイマツや石楠花ドウザンツツジの根元や岩場に可憐な花々が短い夏の陽を浴び、色とりどり今を盛りに咲き誇っているのです。頂上は気流が激しくガスと強風が北面から吹き上げて来る。展望は素晴らしく、尾瀬を代表するもつ一つの山燧ヶ岳は東に聳え、眼下に広がる尾瀬ヶ原は緑に輝き、池塘群は白く光り、その中を木道が延びている。日光連山、武尊山等の峰々が連なり、ナラマタ湖はあくまで言い。時には富士山も望めるそうである。記念写真の後、三六〇度のパノラマを楽しんでいた時、突然「あらー」の大声。何ごとかと声の方を見ると、昨年の富士登山のガイドさんが居るではないか。一年後、同じメンバーと山で再会したのも奇しき縁だと、来年の旅をお願いし、尾瀬ヶ原に向って東面登山道を9時に下り始める。自然破壊が進





み 植生保護の為一九八八年より通行止めとなっていた東面登山道は、整備や修復作業が行われ昨年再開、今年は6月23日に解禁されたのです。整備された木の階段を下ると、高山植物の咲き競う高天が原。うさぎぎく等愛でながら下ってゆくと、急斜面で滑り易い岩礫の悪路となる。蛇紋岩で形成されているこの山は滑り易く、所々沢のようになり、鎖を伝ったり難行苦行となつて来る。「誰かえーしーよい言つたもんはー」唯々足元のみを見つめ、互いに声を掛け合いながら慎重に下るしかない。至仏山(尾瀬ヶ原(1400m)標高差830m、2.6kmの道程、3mで1米下る急斜面なのだ。膝が踊り始め、これは富士山の

方がしーよい。えせこと登山組に入つたと後悔する。尾瀬ヶ原の西端に降り立つた時は、思わず大声で「万歳」。

木道を進めば山の鼻、ここで昼食。下界の二倍の値段のビールは格別で、渴いた喉を潤しました。「ここからは、尾瀬を代表する光景の湿原の木道ハイクとなる。

水芭蕉は終わり、白い果穂のワタスゲや湿原を黄色に染めると言つ二ツコウキスゲは盛りを過ぎている。点在する池塘には、午の刻に咲くのでその名がついた白く清楚なひつじ草、野あざみ、薄紫色のギボウシ、ヒメシロネはひっそりと咲き、モウセンゴケはトボを飲み込もうとしている。

木道の側には、タカトウダイが楚々と咲いている。川にはフトイの群落、浮き鳥、池塘の岩魚、山女の群はのびのび泳いでいる。大きな荷物を背負つたボツカさんにも会う。爽やかであるが、夏の陽差しの中を休憩を取りながら歩き宿の松枝岐小屋に3時20分到着。至仏山を振り返ると、感慨もひとしおである。

**一日目**

山小屋の朝は早い。午前5



時 冷気の中の尾瀬ヶ原は乳白色の濃淡の霧の海、朝日を浴びた至仏山は神々しく、幻

想的な白い世界が広がっている。岩燕の群が飛び交う山小屋を、尾瀬沼に向い6時20分出発。道程は5km。1665m標高差265mの登りである。樹林帯で、鶯、駒鳥、不如帰、オオルリの鳴き声、ゲラのドラミングが静寂の中こだまする。溪流の首、オオニガナ、山百合が咲き、優しい風が心地よくなる山の空気の中を、ゆっくりと登ってゆく。目の前が開け、左手に燧ヶ岳を仰ぐ白砂湿原に出る。ワレモコウが咲いている。沼尻で休憩。周囲の山と空を映し、沼は碧く静かである。尾瀬沼を周遊する木道を進み、大江湿原に。オオアカが、高い草の上で声高に、盛んにテリトリを宣言している。環境庁ビジターセンター、長蔵小屋のある、尾瀬沼東で休憩の後、沼沿いに1km、燧ヶ岳と沼の眺望が素晴らしい三平下で昼食を取る。

尾瀬は国立公園の中でも特別保護区です。美しい自然を守る為、三代に渡り闘った、平野長蔵、長英、長靖。多くの人々の努力で保護されているのです。ハイカー一人一人がマナーを守ってゆかねばなりません。

尾瀬と言えば木道。カラマツが使用されていて、靴から伝わって来る優しい木の温もり。自然を損なわない様にとの配慮だそう。快適にハイク出来る為の敷設、補修作業は、材料を雪のあるうちにヘリコプターで運搬し、雪解けを待つて行われる。諸経費で1m当り10万円位になる高価な道です。ひとまたぎの有難さが伝わって来るようだ。三平峠(1762m)を経て、大清水(1180m)へ下山する。正直ホツとする。

尾瀬は山でないと思われる方も多いでしょうが、初心者ルートに我々でも二本の足を頼りに登り下り起伏に富んだ道を30km近く歩いたのです。梅雨の最中、好天に恵まれ、お嬢様からの贈物の黄色のペアのシャツ姿が印象的だった23回生森ご夫妻も頑張られたし、都会の喧噪を忘れ、美しい自然の風景の中を助け合つて歩いた二日間。ひと夏の思い出となった憧れの尾瀬は、山坂歩いて、ちっともしーよくなかつたけれど、季節とルートを変えて再挑戦してみたいし、さあ、来年は何処へ連れて行ってくれるか、楽しみにしていますよ！



# 甲子園決勝戦同窓会

## 浅井伴泰 (30回)

ここ数年やや低調だった甲子園大会も春夏連覇の横浜高校を中心に熱戦が続きひさしぶりに盛り上がった。その興奮のまださめやらぬ9月12日、45年前に決勝戦で相まみえ、歴史に残る名勝負を演じた松山商の当時の関係者を高知に迎え、還暦記念同窓会が行われた。昭和28年と云うと同窓生の半分は生まれていない頃の話だから簡単にふりかえるとは…前年の28回生主体のセンバツ初出場に続いて連続出場したその年のセンバツで、早実を破り甲子園初勝利。夏の南四国予選決勝は宿敵高知商を3対2で破り夏初出場。甲子園での評判は高くなかったが、運よく2回戦からの登場となった。

二回戦  
土佐 15・3 金沢泉ヶ丘  
この試合で記録した一試合13盗塁は大会記録として、玉川選手(52回)のサイクルヒットと共に大会史に輝いている。今夏、滑川・境戦で4回までに滑川が8盗塁した時は、ついに破られるかと観念したが、その後はゼロで記録は残った。溝淵監督は「あがり」防止の為にどんだん走らせたそうだが半世紀近くも破られない大記録をつくった意識は当時はなかった。

準決勝  
土佐 6・0 中京商  
山本(29回)投手の満塁スリーベースで優勝候補筆頭を倒す。相手の2年生中山投手は翌年優勝し、のちに中日で大活躍したが、ノックアウトされライトの守備位置で肩を落していた姿が忘れられない。

決勝戦  
松山商 0000000011  
土佐 2000000000  
0001-3  
0000-2  
3試合無失点でここまで来た空谷投手の立ち上りをつい

て2点を先取。9回2死走者なしまでリードし優勝旗は手の届くところまで来ていたが、不運な当りやミスが続いて同点にされる。1点リードされた13回裏  
1死2、  
3塁の逆転サヨナラのチャンスで、  
高島(29回)選手  
のライナー  
がライト  
に好捕さ  
れつぎに  
も見放さ  
れた。翌  
日の新聞  
で「優勝  
旗のない  
優勝校」と称えられたが、  
13年後の  
42回生主  
体による  
センバツ  
準優勝と  
共に思い出す度に今でも口惜しさがこみ上げて来る。  
今回の同窓会の企画はふとした出会いからはじまった。



決勝戦の最後の場面で、サイードゴロに倒れた宮本(30回)選手が一年位前に土佐ここでキャデймаスターの広川さんと雑談した際、甲子園の思い出

出話をしたところ、そのサイードは私の父で松山で健在ですということから再会を果たしたのがきっかけで交流がはじ

まり、還暦を記念してと云うことになったわけである。  
昼間の親睦ゴルフに引き続き、サンライズホテルでの夜のパーティーには籠尾元監督も出席され、全部で40人ほどになった。うち松山商25名、松山商小川主将(元中日)から「あの決勝戦の9回、2度ほど負けたと思った瞬間があった。最後まであきらめてはいけないということがその後の人生の苦しい時に役立つ」と挨拶があり、永野主将が「あの試合でやり残したことがあると云う一念から、30年間審判として高校野球に関わって来た。松山商はいわば恩人だ」とエールを送り宴に入った。  
テレビ局「社が取材に訪れ、空谷(現姓：兒玉元)中日で70勝)や山本投手、竹内(29回)松田(29回)弘光(29回)の内野トリオや宮本、高島(29回)の外野陣にしきりにインタビューをしていた。豪腕空谷投手は古武士然とした風貌の割に当時？はナイーブだったらしく決勝前後寝れなくて立ち上り3連続四球を出したと淡々と話してくれた。パーティーの様子は、どういっわけかか、当然かは別にして敬



本箱の奥から、一枚の写真を見つけた。写真の裏に、昭和8年11月とあるのを見ると、中学卒業の前の年の事になる。それは、乙にすました記念写真ではなく、ハメを外した18歳の、稚氣満まん級の友10人という写真だった。

まるで仮装大会のようなテンテンバラバラの恰好をしている。ソフト帽を被り写真に向って右端に立っているのは男前の北川(キタス)、その横に頬杖ついて差籠帽を被っているのは野中(モツソウ)、角帽をアマタにタオルを首に巻いているのは道化ものの寺田(ネンコウ)、ソフト帽を斜に載せ、白いシャツを着ているのは、この家の主の息子の美少年磯久だ。北川の下で頭を手拭をのせ、二ヒルを氣取っているのはこの私(オセシ)だ。他にのっぽの中川、小柄な生野、太った溝間、東近が、思いつきの扮装で納まっている。

### 酒と煙草

写真をしげしげ眺めていて思わず笑った。十人中七人が一様に煙草をくわえていて、それが、火は点いてないのだ。背のびして大人の気持ちや味

わっているつもりだろうか、さまになっていない。一回酒は呑んでいる。酒は未成年でもあまり咎められなかった。この集りを企んだのは、日頃から世話好きの北川に違いない、と早速電話で訊いてみた。

「ウン、そんなことがあった。ワシはその写真持つっちゃらんが、あれは埋料室からこっそりカメラを持ち出して撮ったがヨ。皆で五十銭やったかカンパして、磯久んくで一

## 泣き虫 弱虫 怒り虫

### 一枚の写真

十回生 立仙 浩一

杯やったがヨ。懐しいのう……」

そつ云えば、一同の集まった部屋を仔細にみると、チャブ台の上に一升ビン、徳利、ワインの空ビンが乱立しているし、小皿も辺りに散乱している。竹の皮の包みが見えるのは、牛肉の残りだったか。もしかして磯久の家人の差入れだったかもしれない。勝手にワイワイ騒ぐ声が今にも聞

えてきそうだな、生意気を画にしたような、青春の若者たちの写真を、私はしばし眺めた。何時か、「向陽の空ろ」と口誦んでいて、何故か三根校長(お父)の顔をふと思いつ浮かべてもいた。

は、晩年次第に記憶がうすれて、逝った。医者になった生野の死亡通知は、昨年夫人から届いた。おっとりした坊ぼんの野中は、出征して南方から帰国途中、病院船と共に沈んだ。寺田も東近も溝間も、



### うたかた

あれから六十六年がすぎ、夫それに己れの人生を歩み、中には生死を分けた仲間もいる。一高 東大を出た秀才の磯久

の一時を留めたこの一枚の写真は、六十六年の過去に私を引き戻す。この写真のコピーを北川にも送り、彼をも六十六年の昔に呼び戻そう、と思う。

老の日の特集として地元高知で放映されたのでご覧になった方も居ると思う。宴の半ば、松山商OBで、有名な元巨人軍の千葉茂さんから、メッセージと参加者全員に色紙をいただいた旨披露された。

延長13回、決勝のホームを踏んだ千葉選手は茂さんの末弟であるが、先年亡くなった由、弟を想う心情に思わずほろりとした。レギュラーの物語者は松山商1人に対して土佐は2人。出席者の総数は当時の部員数から、松山商に比べて少なかったが、健在のレギュラー全員が顔を揃えたことは大変良かったと思つた。パーティーは3時間以上続き両校校歌斉唱、最後は全員で「雲はわき光あふれて……」を歌い次回松山での再会を誓って終わった。

その後ほとんど全員で「柳町」に席を移し、深夜までカラオケ合戦となったが、こちらの勝敗は多分に主観的なものだから仲良く引き分けとしておく。とにもかくにも、早朝から深夜まで、最近うんざりするほど聞いている「不景気」と云う言葉が一度も出ない快い一日であった。

# ジャカルタ暴動記

平井立(41回生)



私は東急不動産からインドネシアの合弁会社に出向して住宅開発の仕事をしています。今回の駐在は二度目になります。たまたま今回駐在中の今年5月、32年間続いたスハルト大統領の交代という歴史的な瞬間に立ち会いました。

その時の身近な体験を少しお話します。スハルトの長期支配に倦んだ大衆の支持を得た学生達のデモは、今年に入って頻発していたが、5月12日トリサクテイ大学のキャンパス内でデモに参加していた学生4人が、警備にあたった軍人によって射殺された事件が、スハルト支配の終焉のきっかけとなった。これらのニュースは見ていたがあまり気にも止めず翌13日も通常通り仕事をした。

5月14日

更に翌14日はスラバヤ出張のため朝10時頃高速道路を空港に向かった。すると高速道路から見える左右の景色の中から十筋ほど真っ黒な煙が立

ち昇っていた。それでもまだ昨日のデモの名残かなと呑気な気持ちで空港に着き、予定通り12時の便でスラバヤに発つた。午後1時スラバヤに着くと出迎いの社員が血相を変え「大変です！ジャカルタで暴動が起き空港も道路も閉鎖されています」とのこと。びっくりしたが今更引き返す訳にもいかず、その日はそのまま仕事を済ませ翌日朝一番で帰る事にした。

5月15日

翌15日は朝10時にはスラバヤ空港に着いたが、ジャカルタから飛行機が飛んでこないでだめだと言つ事で、結局夕方5時にやっと飛ぶ事ができた。ジャカルタに着いてからどうやって家までたどり着こうか、空港からの高速道路は通行できるのか、暴徒が料金所を占拠していないか等あれこれ心配をしながら6時にジャカルタ空港に着いた。出迎えに来ていた会社の車に乗り込み真っ黒く出発した。運転手

には「もし途中で暴徒が現れ車を止めようとしても絶対止まるな、突っ走れ」と強く言い聞かせ、前方に目を凝らせ手に汗をかき握り締り締め、夕暮れの中を我が家に向かった。途中料金所は荒らされ道路の脇には投げ捨てられたレンガが散乱していたが、幸い何事もなく我が家に着く事ができた。急いで身の回りのものをかき集め、予約していたホテルにチェックインした。

後で聞いた話だが私の友人はこの時都心から少し離れた高級住宅街の一軒家に奥さんと二人でいた。今夜はやけに周りが静かだなあと思っていたら、夜10時頃警備員(こちらでは一軒家だと必ず一人は警備員がいる)がやってきて「旦那さん、周りは皆逃げてもう誰も居ませんよ。」と言ったぞつだ。友人は「そんなことは早く言え！」と唸つたが後の祭り。運転手も帰しているのだから出る訳にもいかず、奥さんと二人で寝室に籠り、バットを握り、貴重品を袋に詰め込み、まさにまんじりともせず一夜を明かした。

うだ。翌日明るくなって直ぐホテルに駆け込んだことは言うまでもない。

ホテルにて

さて私のチェックインしたホテルでは、すでに日本人を始めアメリカ人、オランダ人に混じって中国系インドネシア人(この国では何かあると真っ先に金持ちのいわゆる華僑が狙われる)も大勢集まり情報交換で賑わっていた。どうも来たる20日がXデーで大暴動が起こるらしい。

我社も急遽社員2人と家族全員9人を日本に帰す事にした。珍しく日本政府の対応が早く18日の臨時チャーター便で帰す事ができた。私以外に2人残った。「私に遠慮しないで君達も帰っていいよ」と言つたが「平井さんと最後まで頑張ります」という。なんとなく嬉しいやらこれでいいのかわからない気分。大袈裟に言えば戦友になったような感じだった。我々は毎日ホテルから一歩も出ずテレビにかじりつきながらその瞬間を待った。ホテルは大統領官邸に近く、前の道路は軍隊によりバ

今更になんか言つてみよ

リケードが敷かれ、戦車まで出て完全に封鎖されている。ホテルの上の階から見ると、少し離れた所で煙が幾筋か立ち昇っている。もし暴徒がホテルに乱入してきて火を放つたらどうしようかと考えると、呑気な私も怖くなった。ホテルのラウンジでは、つい先ほどCNNニュースで早口で喋っていたテレビポーターが原稿を書き、ぶつぶつつぶやいて練習をしている。私のパートナー(インドネシア人)からは毎日のように連絡が入り心配してくれる。「ミスターヒライはいつジャカルタを離れるのか」とその都度聞かれたが、私には「いつ逃げ出すのか」と訊かれているようで、意地でもここまで来たら最後まで見届けてやるうと腹が据わった。

スハルトの終焉

その日はとうとう5月21日になってきた。テレビを見るとスハルトが現れその顔は多少強はっていたがいつもの微笑を浮かべ(私にはそのように見えた)、今日をもって大統領の職を辞するとの発表を行った。隣ではハビビ新大統領(副大統領より昇格)が

くそまじめな顔をして(喜びを一生懸命隠して)突っ立っている。更にその隣にはウイラント国軍司令官(実質的なインドネシアの最高実力者)が眼光鋭い眼差しでじつと一点を見つめている。これで32年間に及んだスハルトのインドネシア支配は終わった。独立の父と呼ばれた初代大統領スカルノを追い落とし、67年二代目大統領となったスハルトは、32年間の支配の中でこの国をアセアンの中でも有力な大国に導いてきた。

しかしながら、近年その長期支配の瀬が社会経済のいたる所に現れていた。特に彼のファミリーに対する肩入れは目に余るものがあり、いざれ行き詰まるものと誰もが見ていた。あれだけ強固だと思われていたスハルト体制も、終わってみれば呆気なかつた。

八七の大統領の新体制下では更に多くの課題を抱えたまま混乱が続いているが、これは変革期には避けられない事であり勇気をもって突き進むしかない。私は私の愛するインドネシアの友人達が、きつとこの混乱を乗り越えて新しいインドネシアを築いてくれる事を信じている。

佐々木泰子(33)

「ひとつハチキン会を作ったらどうかな」。二年前の夏、ほどよく酒のまわった宮地支部長の発案に「はい」して発足した「ハチキン会」。男性の多い土佐高の同窓会に「何とかもつと女性を」の願いからスタートしたこの会も、おかげさまで五回を迎えました。「人生色々、女もいろいろ」28回生から73回生までの女性が集い、楽しく元気の出る会になりました。

ご協力心から感謝致します。



西森さと(57)

じんばもばんばもよう踊るうじやないですけどハチキン会は、まっこと楽しい。超急成長株として今や土佐高同窓会の中でも目を離せない存在となってきました。それもこれも土佐の女性を愛し、永代供養してもらおう?と快く後援して下さった歴代ナイト様のお陰です。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

まあ土佐のおなごの集まりですから、そりゃよう飲むわしゃべるわで慣例となってきました三十秒全員スピーチが何よりのシヨータイムコーナーとなつてしまつた位。六十代から十代の誰ひとりとして、ただ者でない女性ばかりです。二〇〇〇年に高は八チキン会を開催出来るよう今から計画お持ちください。

只今次回ナイト募集中! 後援して下さいるナイト様には女性数十名に囲まれた写真と楽しいひと時をもれなくプレゼントしております。最高のエッセンスになること間違い

## はちきん会

OG会 (愛称)



なしてす。あなたもいかがですか。

歴代ナイト

- 第1回 宮地貫一 (21)
- 第2回 宮地貫一 (21)
- 第3回 市川真介 (53)
- 第4回 沢村良節 (33)
- 千原 望 (33)
- 第5回 浅井伴泰 (30)
- 木下和子(30)

赤坂の夜、シヨーパープってどんなところかしらと胸をときめかしながら出席致しました。明るい舞台上にギターを奏でる人、キーキャップした男性達がいろんなジャンルの歌を熱気のももつたパフォーマンスで披露。私達は笑い転げ、拍手を送りながら飲み

食べ、しゃべりました。若い女性後輩の熱気に圧倒され、自己紹介では卒業年度を四年も若く申す(私)も出て爆笑。老いも若きも同じ土佐の学び舎から育つた縁で相集い、楽しく生きている現況をかたり、あつという間に時が過ぎていきました。

宮地先輩はじめナイトの方々が、故郷を離れ東京で生活をする同窓の女性達、特に若い方達に、暖かいエールを送って下さることに心から感謝を申し上げます。

宮崎晶子(67)

こんな三十歳になりたいなあ  
こんな四十歳になりたいなあ  
こんな五十歳になりたいなあ  
こんな六十歳になりたいなあ  
そう思える人に一度に会えた場所でした。

八チキン会では素敵な先輩方との出会いがたくさんあり、私はつくづく土佐高の卒業生で良かったなと思いました。二〇〇〇年が楽しみです。

鎌田ゆづ子(69)

連絡先..

佐々木(33) 044-955-0562(TEL/FAX)  
hiro\_art@muc.biglobe.ne.jp(E-mail)

金澤(55) 044-954-7581(TEL/FAX)  
kanazawa@toc.nti.co.jp(E-mail)

西森(57) 03-3408-1454

33周年を記念して、久保内郎(33) 記念の寄りを、

10月24日土高知新阪急ホテルにて町田先生をお迎えして二〇人が集いました。聞者はもちろん日本国中からは、はくすく、ジュネブから飛びきた若狭男女。大盛況、飲み食い、しゃべりまくり、歌い、懐かし、楽しい夜でした。幹事さんに感謝

**出版案内**

- 24回生 大原健士朗 「よりよい生と死を求めろ」 P H P 研究所 14000円
- 24回生 大原健士朗 「子どものための精神医学」 講談社 14000円
- 29回生 倉橋由美子 「バイタイ」 角川書店 26000円
- 29回生 竹内靖雄 「『日本』の終わり」 日本経済新聞社 16800円
- 34回生 合田佐和子 「女神イシス」 ほるぷ出版 16000円
- 34回生 田島征三 「あたまたにかきの木」 教育画劇 12000円
- 34回生 田島征彦 「そうべえまっくるけのけ」 童心社 15000円
- 35回生 島本征彦 「土佐市物語」 土佐出版社 13000円
- 36回生 大橋一章 「法隆寺美術論争の視点」 グラフ社 28000円
- 36回生 山野井(穂岐山) 道子 「ガン病棟にきてみない？」

**お悔やみ申し上げます**

- 12回 寺川 博典さん 平成8年6月24日 堀 昌雄さん
- 10回 堀 昌雄さん 平成9年8月29日 岩崎 功さん
- 31回 岩崎 功さん 平成9年 西村 守雄さん
- 11回 西村 守雄さん 平成10年7月 前田 忍さん
- 31回 前田 忍さん 平成10年7月22日 中島桂太郎さん
- 10回 中島桂太郎さん 平成10年9月13日 福岡 啓助さん
- 32回 福岡 啓助さん 平成10年9月27日

**雑誌**

- 窓社 37回生 野田正彰 13000円 「戦争と罪責」
- 岩波書店 39回生 市川忠彦 23000円 「誤りやすい異常脳波」
- 医学書院 40回生 塩田潮 36000円 「金融崩壊」
- 日本経済新聞社 40回生 西村繁男 18000円 「絵で読む広島の原爆」
- 福音館書店 41回生 黒鉄ヒロシ 26000円 「坂本龍馬」
- P H P 研究所 41回生 黒鉄ヒロシ 1429円 「幕末暗殺」
- P H P 研究所 51回生 阿部知暁 1429円 「ゴリラを描きたくて」
- ポプラ社 51回生 坂東真砂子 12000円 「満月の夜古池で」
- 偕成社 12000円

「竹芝のインターコンチネンタルより、もつと夜景のきれいなところにいこうよ」と誘われてついでにいつたら、西新宿のパークハイヤットのニューヨークバー。「来たことあるなんて言わないでね」。言わないけど、面倒見のいい上司と偵察済み。酒癖の悪い上司と上品な場所にくるのもひやひやものだが、エレベータの乗り方もわかんないふりするのも疲れる。生バンドの歌や一人でカクテル傾けている隣のトムハンクス(似)に気をとられていると、二人の会話はしられたものになってしまった。アッパーサーティーズの恋は、複雑で純粋で繊細なのだ。簡単には始まらない。(Y)

**TONTON カラオケ・スナック**

幸田 みどり (土佐女子出身)

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-46-7 第三平沢ビル7F  
TEL 3205-3177 (西武新宿線北口前)

季節のふるさとの味  
**土佐酒蔵**

銀座7-12-4 友野本社ビルB1  
電3545-3855 銀座第一ホテル通り

小料理  
**赤坂「土佐」**

港区赤坂3-13-2 アダンビル 4階  
電話 3586-9454

割烹風居酒屋  
**酒菜浪漫亭**

新橋店/〒105 東京都港区新橋 4-14-7 TEL (03) 3432-5666  
FAX (03) 3432-5720

■営業時間 / (月~金) PM5:00~PM11:00 (ラストオーダーPM10:00)  
(土) PM5:00~PM10:00 (ラストオーダーPM 9:00)

■定休日 / 日曜日・祝日  
本店 / 高知市大手筋1-3-23 TEL (0888) 73-0137  
廿代店 / 高知市廿代町2-17 TEL (0888) 73-8400